

# 工業教育の碑

我が学園は、一九〇七（明治四〇）年、東京工科大学として創設され、後に東京工業学校を併設した。当時、日本は欧米先進国を目標に国力の増進に全力を挙げていた。特に科学技術の発展とその人材の育成は最も重要なものとされた。

学園はまさに国家の必要とする幾多の人材を輩出し、明治、大正、昭和に亘って、我が国の発展に大きく貢献した。

一九四五（昭和二〇）年、不運にして我が国は太平洋戦争に敗北し、米国の占領するところとなり、新学校制度が施行された。一九四八（昭和二三）年、新学校制度に基づき、東京工業高等学校が認可され、その所在地も千代田区神田錦町から、目黒区駒場に移り開校した。

かくの如く、我が校はその創立以来、永きに亘り中等技術教育に邁進し、輝かしい伝統を築き、特に戦後は全国の工業高校の雄として名を馳せた。

時代は移り、著しい技術革新の進展と共に、高学歴社会となり、高等学校における技術教育は、人材育成としての意義が薄れると共に、志願者も大きく減少した。ここに我が校は二〇二一（令和三）年、工業科の生徒募集を停止し、二〇二三（令和五）年三月、最後の工業科生の卒業をもって、工業高校としての歴史を閉じた。

我が学園関係者は、この歴史的節目に当たり、実に一一五年に亘る工業教育の伝統と成果を讃えると共に、永く後世に伝えるべくこの碑を建設することとした。学園の工業教育の灯は、日本工業大学に受け継がれ、益々発展していくであろう。その礎となった東京工科大学、東京工業学校、東京工業高等学校、日本工業大学駒場高等学校工業科の教職員、卒業生そして関係の人々に満腔の謝意を表すると共に、永遠に顕彰するものである。

二〇二四（令和六）年二月吉日

学校法人 日本工業大学

理事長 柳澤 章